

会議等報告（要旨）

会議等名称：第2回社会教育委員の会議

日時：令和4年3月29日（火）13：30～15：30

場所：総合文化センター412号特別会議室

【社会教育委員】

後藤司委員、荒生令悦委員、久保英吉委員、岡部覚委員、阿部公一委員、片桐晃子委員、加藤真知子委員、齋藤彰委員、富士直志委員、庄司憲昭委員

出席 10名

齋藤嵩史委員、渋谷静子委員、鈴木勝委員

欠席 3名

出席者：【事務局】

鈴木教育長、池田教育次長、齋藤教育次長、岩浪図書館長、平井八幡総合支所長、出嶋松山総合支所長、佐藤平田総合支所長、阿部社会教育文化課長、村井課長補佐、小野社会教育主査兼係長、庄司主事、佐々木主事、佐藤専門員

出席 13名

計 23名

報告：令和4年3月31日

内容：以下のとおり

1 開 会

年度末の開催となってしまい申し訳ない。来年度からは是正していく所存なので、ご容赦いただきたい。

2 教育長あいさつ

年度末のお忙しい中、お集まりいただき大変恐縮している。本日は事前に送付していた「令和3年度生涯学習推進計画の取組状況及び成果と課題」について事務局から説明させていただく。皆様から様々なご意見を頂戴したい。

また、前回の社会教育委員の会議の際、庄内教育事務所より講師を招き学校と地域との連携協働について勉強会を行ったが、これに関し新年度に向けての本市の方針を説明させていただく。こちらに関してもご意見をいただきたい。

3 協 議

（1）生涯学習推進計画の取組状況及び成果と課題について

委員	今日は大きく二つのテーマがある。今年度の計画の総括、そして、スクール・コミュニティについてである。前回の勉強会を経て一歩進んだ形での議論となることを願っている。
----	--

	<p>コロナ禍のため、なかなか実施できなかったという報告が多い。仕方ないことではあるが、9割以上の事業が継続となっている以上、可能な限り実施できる方法を模索していきたい。</p>
委員	<p>「読書手帳の活用」について、読書手帳の配布はかれこれ10年ほどになるかと思うが、今年度からタブレット端末が配布されていることを受け、デジタル化する予定はないか。</p> <p>また、「おはなし会」について、「酒田南高校絵本の会に協力し開催した」とあるが、どのようなおはなし会だったのか。</p>
図書館長	<p>タブレットでの読書履歴の管理について、現時点ではまだ難しい。読書手帳の配布は平成28年度から5カ年が経過している。</p> <p>酒田南高校絵本の会とおはなし会は、当該高校の生徒が作成した絵本を学校へ配布し読み聞かせを行った。</p>
委員	<p>「生涯学習まつり」について、コロナ禍の影響により規模が縮小されたようだった。参加団体の高齢化は十分認識しているが、その場限りの展示だけではなく、YouTubeなどインターネットを活用した世界への発信を望む。そのための講座を企画してみるのはどうだろうか。生涯学習まつり参加団体だけでなく、若年層を取り込むことによって人材育成にもつながる。</p> <p>高齢者と若年層の交流の場を提供することも、社会教育として必要と考える。しかし、講師に民間企業を参入させると営利活動で終わってしまう可能性もあり、なかなか難しいと思う。</p>
委員	<p>昨年10月14日に新庄市において、全国公民館研究集会及び東北地区社会教育研究大会が行われた。実行委員長を務めたが、コロナ禍の影響により、すべてのプログラムをオンラインで実施した。400名ほどから参加いただき、アーカイブとして現在もYouTube上に残っている。全国からアクセスされ、研修会の資料として使用したいとの申し出もあった。結果としてよかったと思っているが、費用はかかる。全公連・社教連から支出いただいた。</p>
委員	<p>全国公民館研究集会及び東北地区社会研究大会は、実施方法について、直前まで対面かオンラインかで苦慮されていた。このような状況下だからこそ、二通りあるいは三通りのパターンを想定した準備が必要と思う。</p>
事務局	<p>オンラインの活用については、委員の皆様の意見を参考に、可能なところから実施していきたいと思う。</p>
委員	<p>児童センターの運営委員も兼務している。あちらは休館した影響もあり、利用者の減少が著しい。それに伴い事業も中止が多かったようだが、外出を自粛している家庭に向けてオンラインで遊び方の配信を行ったようだ。まだ試行段階と思われるが、とてもよい取り組みだと思う。情報を受</p>

	<p>け取る側の世代もITに精通しているため、スムーズだっただろう。すべてがオンラインというのは難しいと思うが、コロナ禍という今までにない状況にあって、この状況が継続していくことを想定した場合、共生を図っていくという面からもデジタルの活用方法を模索する必要がある。チャンスと捉えるべきではないだろうか。</p> <p>「酒田の偉人紹介事業」について、2年がかりの事業となったが、この事業の話が出た際、写真だけでなく、どのような功績のある人物なのか説明をつけてほしいとお願いした。簡潔な紹介文が添付されていてよかったと思う。</p>
委員	<p>「酒田の偉人紹介事業」については、私もよい事業と思っていた。あまり怖い表情の写真はよろしくないように思うが、土門拳は真剣な表情の写真しかないのだろうか。笑った写真があればそちらの方がよいと思う。</p>
委員	<p>「赤ちゃん登校日」について、ふれあいは難しい。子育て支援課ではオンラインで乳児とその母親、学校の生徒との交流を行っていたようだ。新型コロナウイルス感染症が収束し、社会教育文化課からの要請があれば、続けていきたい事業だとは思っている。</p>
委員	<p>「赤ちゃん登校日」は全国的に見てもすばらしい事業である。ぜひ継続していただきたいが、ふれあうことで学習効果が飛躍的に高まる事業なだけに、コロナ禍での対策は難しい。</p>
委員	<p>このコロナ禍においても、様々な事業を実施していただいたことに感謝申し上げたい。コミュニティ振興会向けの学習の場「地域の教育力向上スキルアップ講座」について、参加者が少なく地域によって学習意欲に温度差があるとのことだった。どのような温度差なのか教えていただきたい。</p>
事務局	<p>参加状況を見たうえでの個人的な受け止め方ではあるが、あるコミュニティ振興会では会長・副会長・事務局長・職員と事務局全員参加したところもあれば、あるコミュニティ振興会からは誰からも参加いただけない。参加者には相応の手応えがあったことが窺えるため、学習機会としては良質だったと自負している。個別にコミュニティセンターを訪問し、レクチャーしておけばまた違ったかもしれないとは思っている。</p>
委員	<p>講座の内容が地域の課題に合うかどうか、ニーズがあるかどうかというところが大きいと思う。事前に地域でのニーズ把握が大切だと思うので、忙しいと思うが来年度以降お願いしたい。</p>
委員	<p>コミュニティ振興会も、目の前のことで精一杯という状況ではある。人材育成という以前に、すでに活用できるレベルの人材について情報がほしいと思う。</p> <p>事業を行う上で、全員が感動することは難しい。一回の事業が誰か一人の学習意欲に結びつくものであればそれでよいのではないかと。なるべく多</p>

	<p>くの機会が必要だと思う。</p>
委員	<p>ほとんどの事業が継続の予定だが、「酒田市民芸術祭」は令和3年度中止となっている。次年度以降の方向性は継続となっているが、この過程はどのようなになっているのか。</p>
社会教育文化課長	<p>令和3年度はコロナ禍のため中止となった。新型コロナウイルス感染症の収束、感染症対策の確立があれば、「酒田市民芸術祭」は実施する予定である。</p> <p>令和4年度よりこれまでの実行委員会形式はなくなるが、本市の芸術祭としては残る。</p>
委員	<p>青年会議所の事業も対象者の多いものが多く、対面でというのは難しかった。オンライン開催を経験してきたと思うのは、どこでも参加可能な利便さはあるものの、対面と比べて集中力が続かないことや疲労感などデメリットも出てきた。</p> <p>昨年の12月に総合文化センターのホールを使用したが、その際ホール機器操作許可者がいたため自分たちで対応しようと思っていたが、とても操作することができず、最終的には予算を修正し業者へ依頼した。「ホール機器操作講習会」は現在年1回行われているようだが、できれば回数を増やしていただきたいと思う。</p> <p>「酒田の偉人紹介事業」について、最近個人的に歴史に興味をもっている。少年時代には興味がなかったが、大人になってそのおもしろさを理解できるようになった。偉人紹介事業は子どもたちだけではなく、20代など幅広い世代に対して触れる機会を提供していただきたいと思う。</p>
委員	<p>山王祭は再開する予定か。</p>
委員	<p>山形県にまん延防止重点措置が発令されなければ酒田まつりは実施する予定。令和4年度からは青年会議所が主体となって山鉾を作成するのではなく、酒田まつり実行委員会が主体となっていく。</p>
委員	<p>ぜひ支所長からもご意見伺いたい。</p>
八幡総合支所長	<p>八幡地区といえばジオパークに関連した事業が目玉となっている。交流観光課や社会教育文化課でもジオパーク関連の事業は実施しているが、八幡総合支所では鳥海山を知ってもらうことに重点を置き、その周辺の見どころについてもPRを行っている。今年度は登山初心者向けの鳥海山登山講座を実施した。来年度も引き続き難易度別を実施する予定である。</p> <p>また芸術文化振興の取組については、活動の成果を発表していく場として文化祭を継続していく。</p>
松山総合支所長	<p>松山地区は「歴史の残る街」がキャッチフレーズになっている。眺海の森からの景色が「山形の宝」に認定されていることにあやかり、「松山の宝事業」として松山地区の住民がより松山地区について学習できる場の提</p>

	<p>供を目指している。</p> <p>アメリカ合衆国や鹿児島県などとの人的交流も盛んだったが、コロナ禍により中止となった。松山クラフトフェアは最高7,000人が訪れるイベントであり、松山地区をPRする場として最適だったが、人数制限を余儀なくされた。</p> <p>眺海の森のトレッキングは年3回実施、季節折々の魅力を紹介した。</p> <p>芸術文化の振興について、当地区では松山能に力を入れているが、コロナ禍の間隙を縫って松山大寒能を実施することができた。</p>
平田総合支所長	<p>平田地区ではさしこ教室、文化祭等資料に掲載しているが、コロナ禍の影響により中止や規模縮小を余儀なくされたものが多かった。課題として、平田さしこの会の高齢化が進み後継者不足が深刻になっているため、教室の参加者を人材として育てていきたいところではあるが、なかなか難しい。</p> <p>彫刻家の石黒光二先生、水彩画家のあべとしゆき先生は平田地区を代表する芸術家ということで、後援会とも連携しながら事業を実施している。石黒光二先生の作品付近への二次元コードの設置、あべとしゆき先生と活弁士の佐々木亜希子さんの対談などである。</p> <p>旧阿部家の新しい見せ方としてプロジェクションマッピングの活用なども実施。委員の皆様の意見を参考に情報発信のあり方について検討していきたい。</p>
委員	<p>地区の偉人紹介について、岩手県盛岡市の先人記念館、鶴岡市の大寶館など参考になる。新庄市でも宮沢賢治に師事した松田甚次郎をシンポジウムで取り上げた。新庄市では松田甚次郎を主題とした演劇を作成した団体があり、松田甚次郎を通して新庄市を知ってもらおうと中学生にも公演を行っている。</p>
委員	<p>これだけたくさん講座を実施するにあたり、職員も大変だと思う。仕事を一つ増やすと思うと心苦しいが、成果や課題を洗い出すにあたり、他の地方公共団体との比較というのも全体的な評価の上で重要だと思われる。個々の事業についての成果や課題は、十分細かく検証されている。</p>
委員	<p>重要な意見だ。何を目指しているのかわかりやすい資料になるだろう。</p>

4 勉強会

(1) スクール・コミュニティの推進について

委員	<p>現在スタートラインに立ったばかりということで、今後も実践していく中で経過を聞く機会があるだろう。</p> <p>コミュニティ・スクールは学校の中に地域が参入していく、スクール・コミュニティは地域の中に学校が参入していくという認識でよいかと思</p>
----	---

	う。
委員	話を聞いて、地域プロデューサーという役割がとても重要だと思う。現在、想定している人物はいるのか。
教育長	例えば校長を退職し地域と学校のつながりを作ってきた方だとか、市職員を退職し社会教育に関わってきた方だとかを想定している。もちろん退職した方だけでない。フルタイムで勤務できる方を求めている。今後実践していく中でブラッシュアップしていければと思っている。
委員	青年会議所や商工会議所ともつながりを作るのであれば、教育に携わってきただけの人では難しいのではないかな。
委員	人事異動を見て、酒田市として力の注ぎ具合が伝わってきた。しかし、この場で説明を聞いていても、やはりこの事業のメリットが見えてこない。軌道に乗ればまた違うのかもしれないが。
委員	確かに見えない部分が多く、雲をつかむようではある。
委員	この事業については国から補助金がつくのか。
教育長	学校運営協議会がなければ補助金はつかない。
委員	そうすると酒田市の予算だけで取り組んでいくことになるのか。 市立小中学校の教員は新しいことを取り入れることに抵抗がある。校長がリーダーシップを発揮する必要がある。 地域プロデューサーの所在や立場はどのようになるのか。学校教員と対等な存在なのか。さらに実務的なスキルも必要と思われる。ここまで求められる人材が果たして集められるのか。
教育長	誤解のないように説明すると、国で推奨しているコミュニティ・スクールは学校運営協議会と地域学校協働本部の二つの組織からなる。本市ではこの地域学校協働本部のみを実施していきたいと考えているが、実施していく中で学校運営協議会の必要性が出てくれば、それは個々の中学校区でその時に対応したい。コミュニティ・スクールにおける地域学校協働本部では地域プロデューサーに類似した地域コーディネーターという役職があるが、この役職にも限界がある。本市としてはこの役職が非常に重要であることを踏まえたうえで、この役職をさらに重みのある役職にしていきたい。
委員	意思決定しなければならない場では誰が決定するのか。合議制の組織か、地域プロデューサーか、もしくは教育委員会なのか。
教育長	スクール・コミュニティでは様々な立場の人が集まり熟議を行う。しかし、意思決定というのは、あくまで課題を投げかけたものが行うものであると考える。学校側が課題を投げかけたのであれば、熟議の結果を踏まえ、最終的には学校が意思決定を行う。学校と地域で課題を共有することが目的である。

委員	スクール・コミュニティの事例として、千葉県習志野市の「秋津コミュニティ」が出ているが、仕掛け人の岸裕司さんが今年新庄市に来る予定である。7月12日に新庄最上生涯教育推進協議会が主催する「地域とともにある学校づくり研修会」と8月26日の全国PTA研修集会が山形県で行われる際、パネルディスカッションのパネラーとして参加いただく予定である。酒田市からも来ていただき、一緒に勉強できればよいのではないか。
委員	学校側からすれば地域の方との触れ合いを通し、子どもたちは様々な価値観を学んでいく。教員は人事異動があるため、持続可能な教育のためには地域住民との関わりを密にしていくことが重要である。学校教員だけで子どもたちを育てていくことは不可能と思う。できるところから無理なく始めていければ学校としては幸いである。
委員	地域プロデューサーは複数の人間か個人か。
教育長	現在は何も決まっていない。中学校区においては一人では対応できないだろうと思う。
委員	地域プロデューサーは様々な人材とのネットワークを求められる。一人ではなかなか難しい。それぞれ得意な分野のある方々が集まればより易くなるのではないか。

5 その他

本日欠席の渋谷委員が所属する酒田市婦人会連絡協議会は、令和3年度をもって解散する。

委員	「子どもとの交流」CD-Rについて、昨年度のものを拝読したが市街地コミュニティ振興会は富士見と松原のふたつだけだった。これはたまたまコロナ禍の影響により取り上げる事業がなかったということか。
事務局	そのとおりである。
委員	それならば理解できる。これはコミュニティ振興会が主体となった事業を載せているのか。富士見コミュニティ振興会では読み聞かせについて掲載していたが、このような事業もコミュニティ振興会で実施しているのか。
事務局	そのとおりである。

6 閉 会